

久米 裕昭 65

(感染対策部長、写真右)

小野寺 健士 36

(感染管理認定看護師、写真左)

対コロナ初心に返って

たびに次第に大きなうねりとなって押し寄せ、危険な状態です。福島県でも同様で、患者総数の約75%がこの第三波で発生しています。このため、首都圏など主要な地域では二度目の緊急事態宣言が発令されましたが、外出する人は前回の緊急事態宣言の制限、ソーシャルディスタンスの維持、学校の休校、テレワークの導入など、それまでの日常とは異なる生活を送ったにもかかわらず、感染が続いていることで諦めにも似た気持ち表れ、危機意識が低下しているかもしれない。耐えてきた人もありません。このように起ってしまいました。個人の忍耐と努力は

態宣言時に比べ増えている。なぜこのような現象が起るのでしょうか？

第一波の時に、マスク装着、手指衛生の徹底だけでなく、不要不急の外出の自粛、三密(密閉、密集、密接)の回避、移動

の制限、ソーシャルディスタンスの維持、学校の休校、テレワークの導入など、それまでの日常とは異なる生活を送ったにもかかわらず、感染が続いていることで諦めにも似た気持ち表れ、危機意識が低下しているかもしれない。耐えてきた人もありません。このように起ってしまいました。個人の忍耐と努力は

決して無駄になることはなく、地域社会の安全に貢献し、感染拡大の防止という大きな成果につながります。マスク着用、手洗いを励行し、三密空間への行き来はやめましょう。そしてコロナに打ち勝つ日を待ちましょう。

新型コロナウイルス感染症は国内で初めて報告されてから一年が経過しますが、感染拡大に終息の兆しが見えません。全国の感染者は三十万人を超えました。このようなコロナ禍でいかがお過ごしでしょうか？



フラストレーションがたまってきたりしているかもしれません。昨年四月の第一波、昨年七月から八月の第二波、そして昨年十一月から第三波が始まり、続いています。この波は回を重ねる